

## 第 21 回高知市総合教育会議 議事録 (概要版)

- 1 日 時 令和 7 年 2 月 10 日 (月)  
開会：午後 1 時 閉会：午後 2 時 30 分
- 2 開催場所 高知市役所たかじょう庁舎 6 階大会議室
- 3 出席者
- (構成員)
- |              |        |
|--------------|--------|
| 高知市長         | 桑名 龍吾  |
| 高知市教育委員会 教育長 | 永野 隆史  |
| 委 員          | 谷 智子   |
| 委 員          | 西森 やよい |
| 委 員          | 野並 誠二  |
| 委 員          | 森田 美佐  |
- (市長事務部局)
- |               |        |
|---------------|--------|
| 副市長           | 神谷 美来  |
| 副市長           | 弘瀬 優   |
| 総務部部長         | 林 充    |
| 総務部副部長        | 山脇 弘道  |
| 総務部政策推進室長     | 甫喜本 博貴 |
| 政策企画課長補佐      | 村永 京介  |
| 政策企画課総合政策担当係長 | 清遠 佳澄  |
| 政策企画課主査       | 谷村 将生  |
- (教育委員会事務局)
- |                  |        |
|------------------|--------|
| 教育次長             | 竹内 清貴  |
| 教育次長             | 植田 浩二  |
| 教育政策課長           | 岸田 正法  |
| 教育政策課長補佐         | 神岡 純子  |
| 教育政策課総務担当係長      | 西野 友庸  |
| 重大事案検証室検証担当副参事   | 森山 宏一  |
| 教育研究所長           | 越智 知恵  |
| 教育研究所教育相談班長      | 刈谷 美和  |
| 学校教育課長           | 川元 雅一  |
| 学校教育課副参事課長補佐事務取扱 | 田邊 裕貴  |
| 学校教育課教育企画監       | 市原 俊和  |
| 学校教育課学力向上指導監     | 岩城 多加仁 |

- 4 議 題 (1) 学力向上対策  
(2) 「高知市の新たな総合的な不登校対応」  
子供の居場所づくりと学びの多様化学校  
(3) 第2期高知市教育振興基本計画(中間見直し)についての経過報告  
【報告事項】  
高知市立長浜小学校児童プール事故検証委員会の経過報告

## 5 議事の経過

- (1) 学力向上対策について、教育委員会から資料に沿って説明

- 議論

(谷委員)

小学校は全国レベルの学力を維持できているのではないかと思う。正答率を上げることも大切ではあるが、子供達がやろうとする目標に向かって努力することが学校として重要と思う。この教員不足の中で学校は色々工夫をして学力を高める努力をしていると感じる。

中学校も改善傾向にあると思う。学校がチームとして組織的に取り組むことが重要である。教員から提案が出やすい学校は、組織としても活性化しており、子供達の学力も高いと思われる。

また、小中学校のデジタル活用も有効的だと思う。一人一台のタブレットを持って学習することで個々の子供の考えや学習状況を瞬時に把握することができる。ただし、低学年は紙で書くことが重要という意見もあるため、今後はデジタルとアナログのバランスを取ってデジタルの最終的な使い方を研究していくことが重要と思う。

(永野教育長)

私も同様の考えである。小学校、特に低学年のうち、鉛筆で筆圧を込めて書くということは大変大切なことであり、アナログとデジタルのバランスとこれからの授業設計をどのようにしていくかが課題であると思う。また、中学校では自ら学ぶ仕掛けを自分で作っていくという、そういった学習も進めてもらいたい、基礎的な学びもおろそかにしてはならないので、その兼ね合いを現場と十分に考えながら進めていきたいと思う。

(森田委員)

私からは3点意見がある。

一つ目は、資料1の学校質問調査の回答について、回答のあった件数の表記があると

よりわかりやすいと思う。

二つ目は、学力の層を見ると点数の高い生徒と低い生徒とで差が開いているように思える。学力が開いている生徒を一斉に授業するというのは限界があるので、学力の高くない生徒については個別の対応が必要だと思う。その中で、ITの活用も大事だが、個別に生徒と接することで生徒の生活の問題を発見することができたりするので、先生が個別に接して関わっていくことが重要だと思う。

最後に、より良い授業をしていくためには、先生の力量が問われるため、今の8時間の勤務時間の中で、どれだけ授業研究に時間を充てることができるのか、そういうところもこれから考えていく必要があると思う。

#### **(永野教育長)**

個別最適な学びと共同的な学びのバランスがとれた形が理想である。

しかし、学力というのは教室だけで表現されるものだけではなく、家庭生活全般の中から生み出される基盤から教室の中で表現されるものもあり、そういった意味からも、生徒の生活問題を見定める教師の力量形成や授業の作り方という側面からブラッシュアップするための施策が必要であり、また、その次の家庭学習との往還へと繋げていけるよう取り組んでいきたい。

#### **(西森委員)**

参考資料について伺う。

文科省で推奨している授業を「よく行った」と回答している学校と「どちらかといえば、行った」と回答している学校がある。「どちらかといえば、行った」という控えめな回答をした学校はなぜこのような回答になったのか事情を確認したい。また、これらの学校を「よく行った」に移行させるためにどのような手立てを考えているのかも伺う。

#### **(学校教育課学力向上指導監)**

「どちらかといえば、行った」に関して、毎回授業にて文科省推奨の視点をもっていたかというところではなく、頻度の問題と考えている。

また、「よく行った」からといって正答率が高くない教科もある。授業の取組の質に課題があると捉えており、各学校訪問の際には、取組の改善を求めているところである。

#### **(野並委員)**

これまでは学習状況調査・結果報告だけで終わっていたが、今回は結果報告と共に分析がされ、今後の指標をだしていただいたので、これまで以上の報告だと思う。

**(桑名市長)**

学力向上についてそれぞれ意見をいただいた。

私も気になった点がいくつかある。

まず、10 ページ、11 ページに記載の学校質問について、学校の達成度は高いが子供達の学力は伸び悩んでいるので、学校の満足度と子供達の学力をどのように結び付けていくのか、大きな課題だと思う。

また、15 ページに記載の子供達の勉強時間について、小学校6年生、中学校3年生共に家での勉強時間が30分未満の生徒の割合が変わっていないため、この結果を厳しく受け止め、家庭学習の時間へと繋げていけるよう、教育委員会・市長部局で一体となって取り組んでいきたいと思う。

● (2)「高知市の新たな総合的な不登校対応」子供の居場所づくりと学びの多様化学校について教育委員会事務局から資料に沿って説明

● 議論

**(西森委員)**

1点目に、近年、小学生の通所者数が増加しているという話があったが、その要因について把握していることがあれば教えていただきたい。

2点目に、6ページに記載のアンケート調査結果について、「どんなことができる学校であればあなたにとって通いたい学校になると思いますか」という質問で「自分の興味のある分野を中心に学ぶ」あるいは「学年に関係なく、苦手なところから学ぶ」という回答があるが、いずれも既存の学校ではあまり実施されていないと思う。また、別の回答に「受験に向けた内容を学ぶ」とあるが、これについてどういう分析をするのか伺いたい。

3点目は全体的なことについてだが、今回学びの多様化学校の事例に関する資料を多くいただいた。その事例を見てみるとリアル登校を重視している学校とオンラインを活用して学校との繋がりを重視している学校がある。高知市としては学びの多様化学校についてどのような方向性を考えているのか伺いたい。

**(教育研究所長)**

1点目の教育支援センターの通所者数の増加の要因について、資料2で不登校の状況資料をつけているが、学業の不振や生活リズムの乱れなどが小学校中学校共に主な増加の要因として見られる。

2点目の「受験に向けた内容を学ぶ」について子供も保護者も受験に向けての学習を行いながら、自分の興味のある分野を自分のペースで学びたいということがアンケート結果より読み取れる。

3点目の高知市の学びの多様化学校の方向性について、資料の中にはないが、アンケート調査の中で、学びの環境の今後について子供達の声聞いている。アンケート結果より子供達が何らかの形で人と関わることを期待し、学習をサポートしてもらいたいという意識があると考えている。ゆえに、高知市としてはオンライン登校の活用ではなく、対面の関わりを大切にしたい学びの多様化学校の設置を考え、当校の子供達の実態に配慮した柔軟な教育課程を編成したいと考えている。

また、公的機関のオンラインサポートとして、県の心の教育センターが心のオンラインサポートを実施しており、来年度からメタバースを活用したオンラインサポートも本格的に開始すると伺っている。高知市としても、学ぶ選択肢の一つとして活用できるため、県教育委員会と連携しながら、本市としての補助についても研究していく。

#### **(永野教育長)**

1点目、2点目は教育研究所長が申し上げたとおりである。

3点目については、どういう教育プログラムを提供すべきか考える必要がある。オンライン上のシステムを活用しながら、また、人と人との関係性の結ぶような教育プログラムにしていくことがよいと考えており、高知市にふさわしい多様化の学びを展開していきたい。

#### **(野並委員)**

多様化学校のように不登校の生徒について議論していくことも重要な課題だが、一方でそもそも不登校にならないような取組も何か考えていただきたいと思う。

#### **(永野教育長)**

野並委員の指摘のとおり、予防的な措置を講じる必要があると考える。

今の学校の現状では、そのあたりの目配りができていない。予防的な措置を講じるためには、学校だけではなく、福祉分野や医療分野などの他機関との連携強化が不可欠であり、市長部局とも連携しながら不登校にならないような取組の強化を図っていききたいと思う。

#### **(森田委員)**

不登校に関して、まず、不登校になる背景として何か子供達にとって重大な出来事があるということを大人たちが受け止める必要がある。

また、野並委員から意見があったとおり、予防についても必要だと思う。資料2において、不登校の要因として学業の不振や生活リズムの乱れなどいろいろあるが、日々の学校の中で先生が子供とコミュニケーションをとり一緒に共感することができれば、子供達も登校しようという気持ちになるのではないかと思う。そのため、前提として子供達が先生に日々の悩みについて相談するかどうかは先生の力量が問われるところだ

と思う。

学びの多様化学校、教育支援センターなどで子供達が、親でも先生でもない少し年上の子と関わることも重要だと思うので、そのような取組も学びの多様化学校で検討していただきたい。

最後に令和5年度から小中合同保護者会も開催されているように、親をサポートする体制もしっかりしていただく必要があると思う。

#### (永野教育長)

プログラム面では、教員だけではなく社会生活でモデルになる人呼びながら進めていきたい。

### ● (3) 第2期高知市教育振興基本計画(中間見直し)についての経過報告について教育委員会事務局から資料に沿って説明

#### ● 議論

##### (谷委員)

リニューアルを入れ、より一層良いものになってきている。

まず、1点目に3ページに記載の表について、一つの基本目標につき、それぞれ関連性の高いSDGsのゴールを定めているが、この区分けが気になっている。SDGsのゴールを出すことは重要なことだが、私の考えとしては区分けをせずに大枠の中にゴールを示したほうがよりよいものになると思う。検討いただきたい。

2点目に、教育振興計画は高知市の教育方針や現状、取組などが全て記載されているので、指南書として全ての教員に活用してもらうことが重要と思う。

##### (永野教育長)

1点目について、定例教育委員会があるので提示方法を相談していきたい。

2点目について、我々の生活から出てくる大きな問題のため、しっかりと教育の理解を深めていきたいと思う。

##### (西森委員)

どこが見直したポイントなのか読み取りづらいと感じた。

また、見直した経過を何らかの形でわかりやすく示していただきたい。

### ● 【報告事項】高知市立長浜小学校児童プール事故検証委員会の経過報告について教育委員会事務局から資料に沿って説明

#### ● 議論

**(野並委員)**

今回の事故について、小学校が中学校のプールを利用したことが発端だと考えている。根底には人口減やプールの老朽化があり、このような問題に対する一つの取組の中で事故が起きてしまった。事故が起きてしまった中、厳しいかもしれないが、今後も人口減とプールの老朽化は進んでいくので、施設共有も仕方のないことかもしれないと思う。高知市として集約化に向けた作業は変わっているのか進んでいるのか伺いたい。

**(永野教育長)**

事務局より説明があったとおり、検証委員会での検証はしっかりしてもらっている。しかし、水泳の授業は子供の心身と非常にバランスのとれた運動であるため、検証結果を待つまでもなく準備ができるところから安全対策を進めて授業の再開をしたいと考えている。

検証結果と我々が今まで培ってきた授業のやり方を突合させ、課題を明らかにしながら現場と共に水泳の授業を展開していきたい。今後の検証結果についても報告させていただく。

**(谷委員)**

極めて重く重大事案なので、報告を受けて教育に携わるすべての者が、しっかり対応していくべきだと思う。

報告書の提出は年度末ということで間違いないか。

**(重大事案検証室検証担当副参事)**

令和6年度末を目処に提出できるように進めている。

**(森田委員)**

昨年9月から1月までの会議は、どれくらいの時間を要しているのか。

**(重大事案検証室検証担当副参事)**

1回の会議につき、約2時間半前後を要している。

**(西森委員)**

検証結果を待つことは重要なことだが、結果がでるまでも学校の子供達の安全を守っている状態である。一人一人が気をつけて責任があるという意識を引き続き持っていただきたいと思う。

**(永野教育長)**

水泳に限らず、学校の安全対策は着実に足元を固めていくことが使命なのでしっか

りやっていく。

学校安全対策に精通した専門家から、全校長が最近も講義を受けている。春を待たずに水泳の授業のプログラムを学校で立てるよう指示もしているところである。

以上のように、報告を受けた内容と進めている安全対策を照らし合わせて、現場に定着をさせるよう発信していく準備を進めている。

## ● 市長挨拶 (桑名市長)

それぞれの委員の皆様方から貴重な御意見をいただき感謝申し上げます。

最後に市長からまとめをさせていただくと、まず学力向上について、点数だけを上げるのではなく、生き抜く力を身に付けることが重要と考える。その中には学力の向上も必要だが、体力の向上、それから徳育というようにバランスのとれた教育が求められる。しっかりとバランスのとれた授業を行い、子供達の成長を確認していきたいと思う。

次に不登校問題について、高知県は多くの不登校の生徒がいると認識している。一人一人に寄り添った対策を練っていく必要があると考えている。子供達の居場所づくりのために学びの多様化学校も県と連携して進めていきたい。

また、学力や不登校について、もう学校だけで対応できるような状況ではないので、市長部局も積極的に教育委員会と連携をとりサポート体制を拡充しながら対応していきたいと思う。

次に教育振興基本計画について、本日いただいた意見を踏まえ、しっかりと見直しを進めていきたいと思う。

プール事故の検証報告事項について、プールだけではなく学校の危険なものを少しでもなくしていくために、施設整備や授業の在り方について校長会を通して対応をしているところである。

事故については検証委員会の報告を待つところだが、報告があり次第対応をしているので、今後も様々な意見をいただきたいと思う。

本日は貴重なお時間をいただいたこと、感謝を申し上げます。

## ● 閉会